

令和3年産

# 大崎稲作情報 第6号

令和3年7月14日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

## 今後の管理のポイント

- ✓ 稲の生育量を判断して追肥を行いましょう
- ✓ 間断かん水を行いましょう
- ✓ いもち病や斑点米カメムシ類防除に努めましょう

## 1. 気象経過

6月第1半旬～第3半旬までは高温・多照となり、第4半旬～第6半旬までは気温・日照時間は概ね平年並みでした。7月第1半旬～第2半旬は最高気温はやや低めで最低気温は平年並み～やや高め、日照時間は少なく、降水量は多めとなりました。

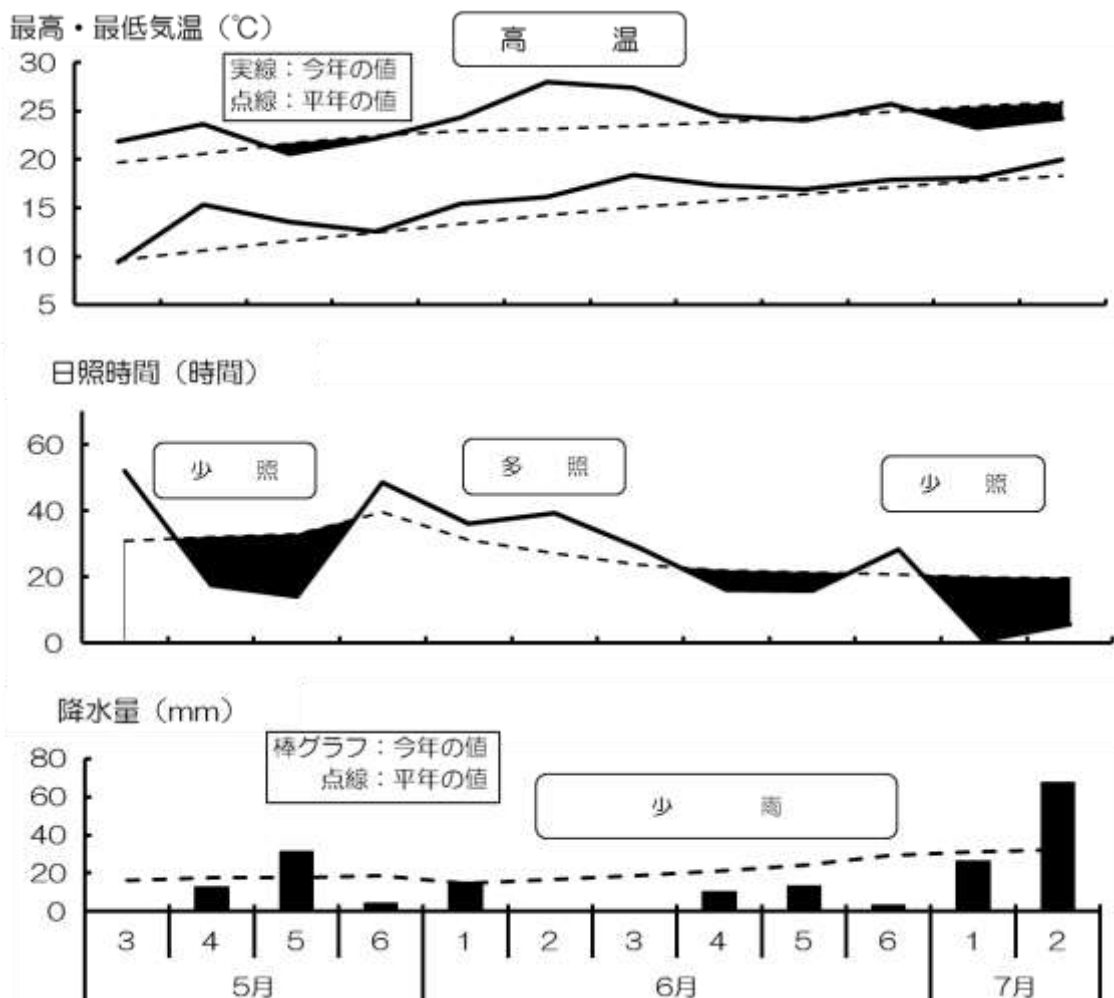


図1 5～7月の気象 (古川アメダス)

## 2. 生育概況（7月9日現在）

生育は順調に進んでおり、草丈・莖数・葉数は概ね平年並となりました。葉色は平年よりも淡いほ場もあるが概ね平年並み～やや濃くなりました。幼穂長が1.0mm以上確認された地点は6地点あり、中生品種は幼穂形成始期に達しています。

表1 生育調査結果

品種名	地区名	田植・播種月日	草丈(cm) (平年比)	莖数(本/m <sup>2</sup> ) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	幼穂長(mm) 幼穂形成始期 ( )内は平年差	備考 幼穂形成始期
ひとめぼれ	大崎市三本木	5月2日 (3日早い)	67.3 (106%)	547.0 (100%)	10.6 (-0.1)	42.4 (+1.3)	3.6 7/1	7日早い
ひとめぼれ	加美町小野田	5月16日 (1日早い)	61.8 (104%)	550.9 (100%)	11.1 (+0.5)	42.5 (-1.2)	1.5 7/8	3日早い
ササニシキ	大崎市古川	5月10日 (1日遅い)	60.8 (94%)	462.3 (72%)	10.1 (-1.1)	45.4 (+4.9)	0.2 (-0.9mm)	
つや姫	色麻町四竈	5月3日 (1日遅い)	61.3 (96%)	590.7 (103%)	10.7 (+0.2)	40.7 (-1.9)	0	前年比・差
だて正夢	大崎市三本木	5月16日 (13日遅い)	69.7 (108%)	521.2 (137%)	11.2 (-0.2)	43.5 (+5.5)	1.1 7/9	前年比・差 2日遅い
金のいぶき	大崎市三本木	5月10日 (3日遅い)	63 (97%)	573.3 (102%)	11.4 (-0.7)	38.1 (+3.2)	1.4 7/9	前年比・差 4日早い
まなむすめ	加美町宮崎	5月14日 (平年並み)	62.5 (104%)	597.0 (110%)	10.9 (+0.3)	34.9 (-4.0)	1.0 7/9	1日早い
ゆきむすび	大崎市鳴子温泉	5月22日 (2日早い)	52.6 (104%)	322.9 (101%)	9.5 (+0.1)	45.4 (+0.9)	1.7 7/8	前年比・差 4日早い
みやこがねもち	大崎市岩出山	5月16日 (2日早い)	57.5 (100%)	511.5 (93%)	10.8 (-0.1)	32.4 (-5.1)	0.1 (+0.02mm)	
ひとめぼれ (湛水直播)	加美町米泉	5月3日 (4日早い)	53.8 (104%)	492 (86%)	10.0 (+0.7)	41.7 (+1.6)	0	
県平均（ひとめぼれ 24ほ場）			61.4 (101%)	528 (95%)	10.6 (-0.4)	39.5 (-0.8)	- -	-

※平年比・差は前5か年（平成28年～令和2年）の平均値との比較

## 3. 出穂予想 出穂期は8/1頃の見込み

今後の天候が平年並みであると仮定すると、中生品種の出穂期は8月1日頃（平年より1日早い）の見込みです。

今後の天候により、生育ステージが予測値から変動することがありますので、ほ場の幼穂長を確認し、随時生育ステージを把握することに努めましょう。

表2 生育ステージの予測

	田植始期	田植盛期	田植終期
田植月日	5月4日	5月11日	5月21日
幼穂形成始期	6月30日	7月5日	7月12日
減数分裂期	7月14日	7月17日	7月23日
出穂期	7月29日	8月1日	8月7日

※1 7/12まで古川アメダスデータ実測値を使用，7/13以降はアメダス平年値を使用。

※2 対象品種は「ひとめぼれ」「ササニシキ」

## 4. 今後の管理

### 1) 追肥 **追肥は生育量を判断して施用**

生育量が不足している（葉色が薄い、莖数不足等）場合には、追肥が必要です。過剰な追肥は倒伏や病害虫の誘発へとつながります。追肥をする際は、生育量（葉色の濃さ、倒伏診断指標等）を判断して行いましょう。

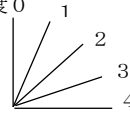
表3 「ひとめぼれ」「ササニシキ」の倒伏診断指標

幼穂形成期(草丈×㎡莖数×葉色; 10 <sup>5</sup> )							減数分裂期(草丈×㎡莖数×葉色; 10 <sup>5</sup> )														
莖数 (本/㎡)	草丈 (cm)	葉緑素計値 (SPAD502型)					倒伏 危険域	I	II	III	莖数 (本/㎡)	草丈 (cm)	葉緑素計値 (SPAD502型)				倒伏 危険域	I	II	III	
		38	40	42	44	46							48	34	36	38					40
600	50	11.4	12.0	12.6	13.2	13.8	14.4				550	60	11.2	11.9	12.5	13.2	13.9	14.5			
600	55	12.5	13.2	13.9	14.5	15.2	15.8				550	65	12.2	12.9	13.6	14.3	15.0	15.7			
600	60	13.7	14.4	15.1	15.8	16.6	17.3	倒伏			550	70	13.1	13.9	14.6	15.4	16.2	16.9	倒伏		
600	65	14.8	15.6	16.4	17.2	17.9	18.7	危険域			550	75	14.0	14.9	15.7	16.5	17.3	18.2		I	
600	70	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2				550	80	15.0	15.8	16.7	17.6	18.5	19.4		II	
600	75	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6				550	85	15.9	16.8	17.8	18.7	19.6	20.6		III	
600	80	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0				550	90	16.8	17.8	18.8	19.8	20.8	21.8		III	
700	50	13.3	14.0	14.7	15.4	16.1	16.8				600	60	12.2	13.0	13.7	14.4	15.1	15.8			
700	55	14.6	15.4	16.2	16.9	17.7	18.5				600	65	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2		I	
700	60	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2				600	70	14.3	15.1	16.0	16.8	17.6	18.5		I	
700	65	17.3	18.2	19.1	20.0	20.9	21.8				600	75	15.3	16.2	17.1	18.0	18.9	19.8		II	
700	70	18.6	19.6	20.6	21.6	22.5	23.5				600	80	16.3	17.3	18.2	19.2	20.2	21.1		II	
700	75	20.0	21.0	22.1	23.1	24.2	25.2				600	85	17.3	18.4	19.4	20.4	21.4	22.4		III	
700	80	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9				600	90	18.4	19.4	20.5	21.6	22.7	23.8		III	
800	50	15.2	16.0	16.8	17.6	18.4	19.2				650	60	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2		I	
800	55	16.7	17.6	18.5	19.4	20.2	21.1				650	65	14.4	15.2	16.1	16.9	17.7	18.6		II	
800	60	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0				650	70	15.5	16.4	17.3	18.2	19.1	20.0		II	
800	65	19.8	20.8	21.8	22.9	23.9	25.0				650	75	16.6	17.6	18.5	19.5	20.5	21.5		III	
800	70	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9				650	80	17.7	18.7	19.8	20.8	21.8	22.9		III	
800	75	22.8	24.0	25.2	26.4	27.6	28.8				650	85	18.8	19.9	21.0	22.1	23.2	24.3		III	
800	80	24.3	25.6	26.9	28.2	29.4	30.7				650	90	19.9	21.1	22.2	23.4	24.6	25.7		III	
900	50	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6				700	60	14.3	15.1	16.0	16.8	17.6	18.5		I	
900	55	18.8	19.8	20.8	21.8	22.8	23.8				700	65	15.5	16.4	17.3	18.2	19.1	20.0		II	
900	60	20.5	21.6	22.7	23.8	24.8	25.9				700	70	16.7	17.6	18.6	19.6	20.6	21.6		III	
900	65	22.2	23.4	24.6	25.7	26.9	28.1				700	75	17.9	18.9	20.0	21.0	22.1	23.1		III	
900	70	23.9	25.2	26.5	27.7	29.0	30.2				700	80	19.0	20.2	21.3	22.4	23.5	24.6		III	

倒伏危険域

- I 倒伏度2を超える確率5~20%
- II 倒伏度2を超える確率20~50%
- III 倒伏度2を超える確率50%以上

倒伏度0



※ 倒伏診断指標は、「草丈×㎡あたり莖数×葉緑素計値÷100,000」により算出。

### 2) 水管理 **幼穂の発育には水の吸収が不可欠**

- ✓ 幼穂形成期に達したほ場は間断かん水を行いましょう。特に、減数分裂期～出穂期前後は水の吸収量が最も多い時期となります。この時期に水分が不足した場合、幼穂の発育や開花受精が妨げられる恐れがあります。そのため、低温時を除いて十分に酸素と水を供給しましょう。
- ✓ 低温時（日平均気温 20℃以下が長期間続く、または最低気温 17℃以下）の際は障害不稔が発生する恐れがありますので、深水管理としましょう。

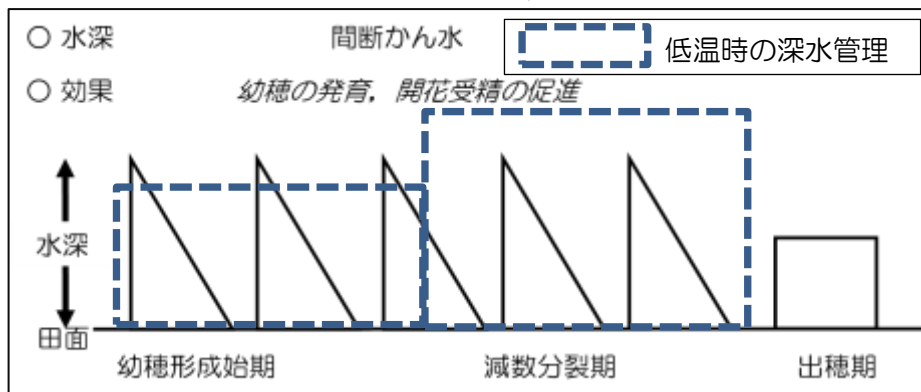


図2 今後の水管理

